

# 迷宮

参考文献  
「小さな人生論」  
ポケット名言集  
致知出版

## 人間の天敵

先週から行われた三者教育相談が終わり、三年生にとって、いよいよ進路目標達成に向けて、自分が加速していく時期を迎えます。学校生活も、学校外の生活も、どう「24時間をデザイン」していくのか。

何時に起きて、何をするのか。何時に帰宅するから、何時から勉強するのか。何時までやるのか、何時に寝るのか。今から何をやるのか…。

これらのように、自分で決めることがたくさんあります。先週も触れたように、『決断の連続』です。

また、「眠たい」、「ゲームをしたい」、「マンガ読みたい」、「スマホで動画を見たい、友だちと話したい」…。

普通に生活をしていても、あなたが今一番しなくてはならないことを、まぎわせるような誘惑が、あなたをおそってくるものです。

そこで、自分にとってどうなのか、正しい判断をし、誘惑をはね除け、目標に向けてぶれずに生活し、「自立」していくためには、いったい何が大切なのでしょうか。

地球には、いろんな生物が生息しています。地球を作った神様は、

その地球に生息する生き物に等しく「天敵」を与えたそうです。

(三年生は食物連鎖で学習したばかりの内容ですね。)

天敵がいなければ、あらゆる生き物は増長し、蔓延し、思うがままに振る舞い、のさばり始めるからです。

世の中を作った神様は、調和(バランス)を愛するのでしょうか。しかしながら、ただ、無数にいる生命体の中で、なぜか、唯一、人間だけに「天敵」がないそうです。

いったい、何故なのでしょう。長い間、そのことは人間の「疑問」だったのですが、ある時、その答えが見出されました。それは…

「人間の天敵は、外ではなく、心の中にいるのだ。」と。

人間を襲い、蝕んでいく天敵、それは心の中に巣を作る「不平不満」。何か起る度に、心の中に湧き起こってくる不平や不満、愚痴、他者をねたむ心、ウソをついて逃げようとするズルい心…。そういったものこそ人間を滅ぼす天敵だったのでした。

私が子どもの頃、「ウソつきは泥棒の始まり」と耳にたこがでるくらい親からよく言われてきました。父親からしっかり怒られたことを思い出してみると、だいたい誰かにウソをついてごまかしたり、逃げたりしようとするときでした。

「ウソをつく」ということは、「他者を欺くこと」だと子どもの頃は思っていました。しかしながら、大人になった今、他人ではなく、「自分を欺かない」「自分にウソをつかない」「自分を諦めない」ということが最も大切なんだ、一番難しいことなんだ…と気づきます。

また、人間は「自分ができない理由を言い訳する天才」とも言えます。「今日は疲れているから明日しよう。」「今日は●●があったらから、できなくてもしょうがない。」と、自分で勝手にできない理由を考えて、自分を納得させ、今やらないことを正当化するものです。(生徒指導通信を二ヶ月間も出さなかつた私自身…)

これはある意味、自分にウソをついているのと同じことです。

「人は自分で決めたことを、自分で守ることが一番難しいもの」

だからこそ、大事な勝負事では、「この言葉が心にしみるのです。」

# 敵は自分